

3. 鐵 道 局

第9次交通安全基本計画（案）鉄道交通の安全（平成23年度～平成27年度）

背景

過去の重大な列車事故の発生

運転事故件数の下げ止まり

- ・ 死者数の下げ止まり
- ・ 人身障害事故件数の増加

基本的考え方

重大な列車事故の未然防止

運転事故全体の死者数減少

目標

乗客の死者数ゼロ

運転事故全体の死者数減少



鉄道交通の安全

< 鉄道交通環境の整備 >

- ・ 鉄道施設等の安全性の向上
非常停止押しボタン等の整備
- ・ 運転保安設備等の整備
速度制限機能付きATS等の整備
運転士異常時列車停止装置・運転状況記録装置等の整備
- ・ 地域鉄道の安全対策
老朽化した施設・車両等の適切な維持管理・更新

< 鉄道交通の安全に関する知識の普及 >

交通安全教育の充実等

< 鉄道の安全な運行の確保 >

- ・ 運転士の資質の保持
- ・ リスク情報の分析・活用による安全の確保
- ・ 気象情報等の充実
- ・ 鉄道事業者に対する保安監査等の実施
- ・ 地域鉄道の安全性の向上
- ・ 事故等の発生時における適切な情報の収集・連絡

< 鉄道車両の安全性の確保 >

- ・ 事故発生時における乗客・乗務員の被害軽減のための安全対策の検討及び活用
- ・ 電子機器等の誤動作防止に関する検討及び活用

< 救助救急活動の充実 >

< 被害者支援の推進 >

< 鉄道事故等の原因究明と再発防止 >

< 研究開発及び調査研究の充実 >

- ・ 鉄道の安全性向上に関する研究開発の推進

踏切道における交通の安全

< 踏切道の立体交差化，構造の改良及び歩行者等立体横断施設の整備の促進 >

< 踏切保安設備の整備及び交通規制の実施 >

< 踏切道の統廃合の促進 >

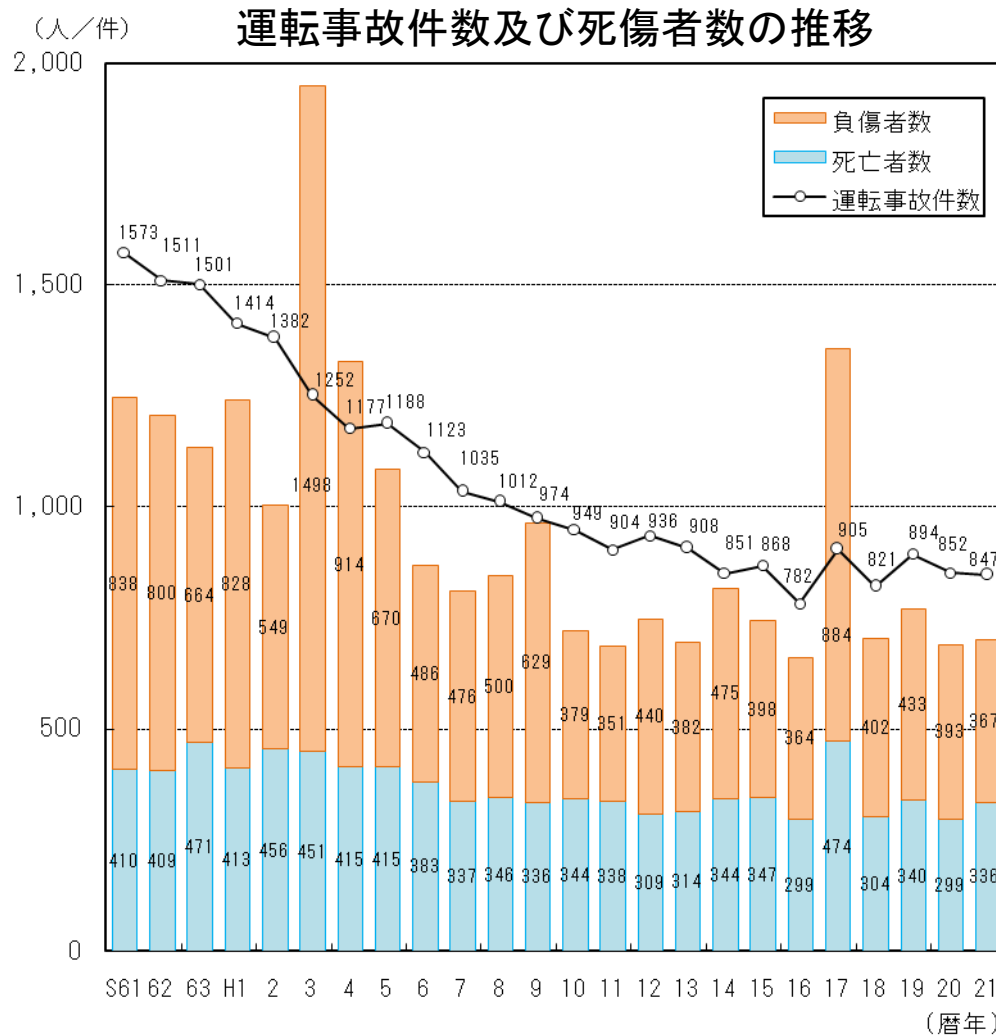
< その他踏切道の交通の安全と円滑化を図るための措置 >

- ・ 情報技術を活用した踏切事故の防止

運転事故の発生状況

○運転事故件数及び死傷者数の推移

平成21年の運転事故による死亡者数は336人で対前年37人(12.4%)増、運転事故件数は847件で対前年5件(0.6%)減でした。また、乗客の死亡事故は0件でした。

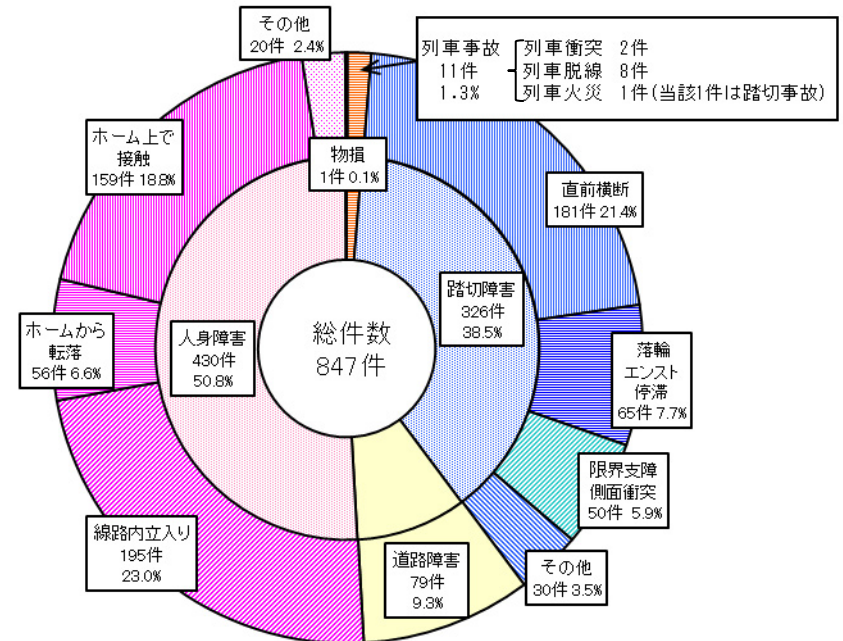


○運転事故件数の内訳

運転事故件数については、その約9割を「線路内立入り」や「ホーム上で(列車等との)接触」などを原因とする人身障害事故と、「直前横断」などを原因とする踏切障害事故が占めています。

このため、運転事故の防止には、鉄軌道事業者の安全対策に加えて、利用者や踏切通行者等の協力が重要となっています。

運転事故件数の内訳(平成21年)



※平成21年の数値は未確定